

## 編集後記

本号は当初、光森正十先生のご退職にあたり、その記念号とすべく編集されていたものであった。光森先生にもご寄稿をお願いし、「思い出をつづつたようなものなら」と言って頂いたのが「四年間を回顧して」である。その頃、すでにご体調がすぐれず、思うように仕事がすすまないと嘆いておられたが、よもやこのように早く先生の訃報を耳にすることになるとは夢にも思っていなかった。刊行直前のできごとであり、急遽、本号を追悼号として再編集しなければならなかったことは、まことに残念でならない。

先生のご提案により、昨年の夏、文化財学科の研究棟に新たに美術史実習室が設けられた。実習室で学生達が光森先生より直接講義を受けることは叶わなかったが、学生にとってはこの上ない溜まり場となり、にぎやかな声が響いている。このような様子を先生はお浄土よりどんなお顔で眺めていらっしゃるのだろうか。どうぞいつまでも見守って下さいますように。

一同、深い感謝の意とともに本書を御霊前に捧げ、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

一九九九年四月十日 印刷・発行

### 文化財学報 第十七集

光森正十先生追悼記念論集

編集  
発行

奈良大学文学部文化財学科

〒三三八三 奈良市山陵町一五〇〇

印刷 明新印刷株式会社

〒三〇八四 奈良市南京終町三丁目四六四番地

